Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

F－4

セルライトに対する漢方医学的検討

○矢久保修嗣[1)]，木下優子[1)]，荒川泰行[1)]，尾見徳弥[2)]
日本大学医学部東洋医学講座[1)]，クイーンズスクエア[2)]

【はじめに】セルライトは末梢の循環不全，代謝不全に伴って脂肪組織内に線維化が生じ，それにより脂肪組織の代謝不全が亢進して脂肪組織が変性をきたすとともに，周囲組織の線維化も進んだ状態と考えられている。これは通常の肥満組織と異なって臨床的にも固い結節状を呈することが特徴とされ，orange peel appearanceとして知られている。セルライトの最も好発部位は，大腿背側部とされている。セルライトの原因としては遺伝的要因，ホルモンのアンバランス，循環障害，姿勢の悪さ，アルコール飲料などが考えられている。今回，我々はセルライトの存在と漢方医学的な関連を検討を行った。

【対象および方法】セルライトに関心のある健常成人女性17人（19～35歳）を対象とした。セルライトの評価は，肉眼所見により大腿背側部において特有の凹凸の形成をみる皮膚症状，同部位における接触型サーモグラフィー（Contflex）所見により，存在の有無と重症度を3段階に分類した。漢方医学的評価は，問診票による自覚症状，腹診による臍傍・下腹部の圧痛を検討した。

【結果】セルライトは，対象の17例の全てに存在し，皮膚所見，接触型サーモグラフィー所見などの重症度評価により，軽症6例，中等症6例，重症5例であった。この17例では，臍傍・下腹部の圧痛(88.2%)，むくみやすい(70.1%)，生理痛(64.7%)，手足の冷え，皮膚がかさつく(76.5%)，立ちくらみ，爪がわれやすい(58.8%)，瞼周囲の色素沈着(47.1%)などの所見がみられた。重症度との関連では，むくみやすい，車酔いしやすい，冷えのぼせ，顔の火照り，眼瞼周囲の色素沈着，臍傍・下腹部の圧痛などの所見が重症度と関連することが推測された。

【結語】セルライトの重症度と漢方医学的所見との関連について検討した。セルライトは，瘀血，血虚の所見に水滞や気逆の所見が伴ったものに発症することも推測された。セルライトに対する駆瘀血剤，補血剤の投与などによる漢方医学的治療効果も期待される。

【謝辞】今回の検討では，ジャンプコーポレーション；島田朋恵女史，板坂克二氏，相原伸哉氏，浜口葉子女史。エムピージャパン；北行典氏の協力に深謝する。

NII-Electronic Library Service